



「全能の神」はバイデンではなくトランプに微笑んだ！

バイデンは自分を大統領選候補から撤退させることができるのは「全能の神だけだ」と言った。

バイデンに対して民主党の大物や大口資金源、著名な支持者たちから大統領選候補撤退要求が相継いでいるがバイデンは「私は撤退しない。全能の神から与えられた仕事を成し遂げねばならない」と言う。

自分が不利になると神を引き合いに出す者は卑怯者であり敗北者だ。

バイデンが口を開く度に認知症が露わになり、はたして大統領の重責が務まるのかと言う疑問と不安が内外で増幅している。

それでもバイデンは一貫して「私はトランプに勝つ」と言い続ける。

もしバイデンが大統領でなければ精神病院行きだと思うのは私だけだろうか。

精神病患者を大統領にしてはならないのはどこの国でも同じだ。

はたしてバイデン不適任大統領候補を降ろすことができるのは神以外にないのだろうか。

実は神と同じか、又はある時は神に勝るモノがある。

「カネ」(資金)である。

大口献金者(ジョージ・クルーニー等)、ウォール街、世界最大級投資家(ブラック・ロックなど)がバイデン支持を取りやめた。

「カネがモノを言うアメリカ」ならばバイデンもカネに従わなくてはならない。

バイデンが大統領候補に固執しているのは、民主党が水面下で大統領と副大統領候補の組み合わせを決めるまでの時間稼ぎをしているのだろう。

バイデンはトランプに勝てる組み合わせが決まれば大統領候補を断念するつもりと見ている。

民主党必勝のコンピネーションは、私がすでに間接的に民主党大物にアドバイスしている「ヒラリー大統領、ミッシェル・オバマ副大統領候補」である。

7月28日私は元トランプ大統領の国家安全保障問題主席補佐官であったマイケル・フリン氏と対談をする。

トランプが濡れ絹を期せられたロシアゲートの真相を知るウィキリークス創始者ジュリアン・アサンジがイギリスで8年以上拘束の末、米司法当局との司法取引合意で6月24日釈放、故郷のオーストラリアに帰国している。私としては民主党の大物に必勝のアドバイスをしたので、今度は共和党に民主党潰しのアドバイスをする番だと思っている。

マイケル・フリン氏はロシアゲート疑惑でトランプを助ける為に犠牲になったことでトランプに貸しがある。

私もマイクも28日を楽しみにしている。

ところで7月14日(アメリカ時間)ペンシルベニア州バトラー市でトランプの大統領選キャンペーン演説が始まった直後トランプ暗殺未遂事件が起きた。

幸い弾丸はトランプの右耳をかすただけでトランプの命に別状はなかった。

シークレットサービスたちが赤い血が顔を流れているトランプを抱きかかえ現場から移動しようとするのをトランプは遮って拳を何度も振り上げ、アメリカ、アメリカと叫ぶとパニック状態になり地面に伏せていた民衆が立ち上がり、トランプに呼応してアメリカ、アメリカと叫んだ。

星条旗を背にしたトランプがアメリカの英雄になった瞬間である。

このシーンの感動は11月の大統領選挙投票日まで国民の心から離れることはない。

全能の神はバイデンではなく、トランプに微笑んだ。